



安全上の注意

**警告** ■ お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

**注意** ■ 以下に示す表示と意味をよく理解してから本文をお読みください。

**警告** 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

**注意** 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

■ 絵表示には次のような意味があります。

この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

この絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

**警告** ■ 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしない  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります

**注意** ■ 交流 100V 以上では使用しない  
火災・感電の原因になります

**注意** ■ レンジフードの壁への埋め込みは漏電した場合、発火するおそれがあります

**注意** ■ 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆う  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

**警告** ■ 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなう  
火災などの原因になります

**注意** ■ 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなう  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

**注意** ■ メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付け  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

**注意** ■ レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付け  
漏電した場合、発火するおそれがあります

**注意** ■ アースを確実に取り付ける  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

**注意** ■ 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をする  
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあります

**注意** ■ 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わない（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります

**注意** ■ 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けない  
火災・故障の原因になります

**注意** ■ 運転中は指や物を絶対に入れないけがをするおそれがあります

**注意** ■ レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に  
落下によりけがをすることがあります

**注意** ■ 部品の取り付けは確実に  
落下によりけがをすることがあります

**注意** ■ 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をする  
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

安全上のご注意

**お願い**

■ 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- 大工事【設置のための地下工事等】
- 配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ―利用以外の配線接続等】
- 管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

■ ダクトの不燃処理について

- ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
- 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

■ 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。

調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

■ 屋外壁面の排気出口に取り付けるペントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m<sup>3</sup>/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

■ 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじり下げた状態で、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

■ レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。

本体の取付用ねじは 45mm の長さのものと同梱されており、壁下に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。

また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。

■ 製品は調理機器の真上に取り付けてください。

なお、製品取付高さは、製品前面の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

■ レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。

また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。

湯沸器の真上は蒸熱になるため故障の原因になります。

■ 本体やダクトなどが他の電気製品と接触しないよう取り付けてください。

■ 電源コード等の各種コード類は、吊るなどして、レンジフード本体や排気ダクト等に接触しないようにしてください。

■ 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

■ 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集されませんが、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用したければ、よりすぐれた換気ができます。

■ 建物が開閉されている場合は必ず、約 400cm<sup>3</sup> 程度の空気取入口を開けてください。

■ 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

■ レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。

レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れランプを正しく表示できなくなります。

取り付け前の調査と準備

**警告**

■ 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしない  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります

■ レンジフードの壁への埋め込みは漏電した場合、発火するおそれがあります

■ 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆う  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

■ 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなう  
火災などの原因になります

■ レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付け  
漏電した場合、発火するおそれがあります

**注意**

■ 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けない  
火災・故障の原因になります

■ レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に  
落下によりけがをすることがあります

■ 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をする  
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認  
製品を支える強さが必要です。

製品単体質量	600 幅	18.5 kg
750 幅	20.5 kg	
900 幅	22.5 kg	

■ 板張りの場合

- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合

- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールブラグ等を使用し固定してください。

■ 土壁の場合

- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

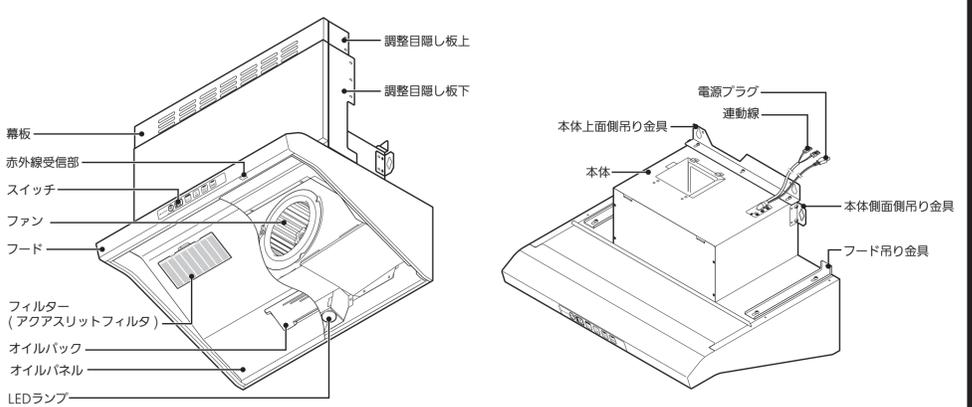
2 別売品の準備  
排気口部に付いた別売品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法  
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品前面下端まで 80cm 以上です。  
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

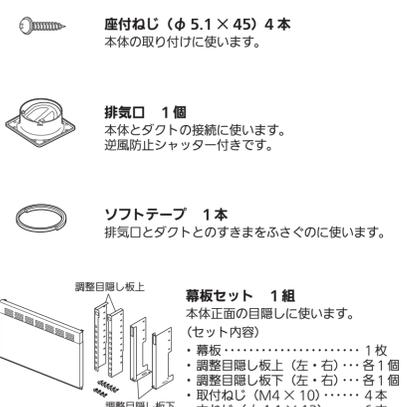
4 電源コンセント・ブレーカー  
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）  
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

**お願い**  
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。  
レンジフードが誤動作することがあります。

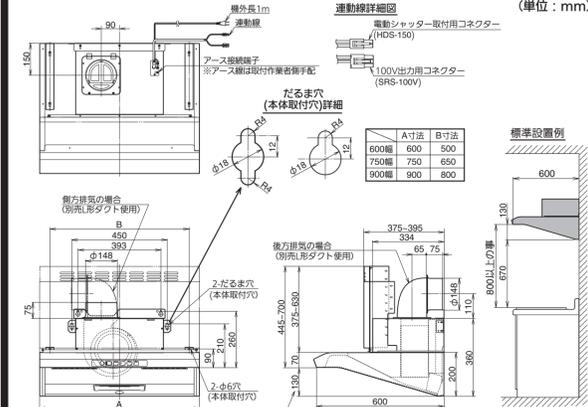
各部のなまえ



付属品



製品寸法図



取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

■ 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をする  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります

付属品を確認します。  
梱包箱から付属品を取り出し、上項中央の付属品一覧により不足がないか確認します。

**お願い**

- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 保護用のクッション材と固定テープは「6. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし」まではずさないでください。
- 床で作業する場合は、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2. 排気方向の決定

警告

■ 製品とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆う  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

■ 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなう  
火災などの原因になります

■ メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付け  
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

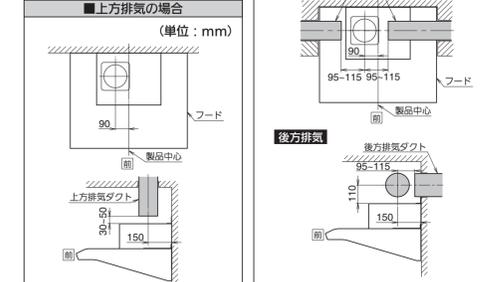
注意

■ 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わない（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります

■ 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けない  
火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。（ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）  
また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを窓のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（コンクリート、タイル、土壁の場合）



3. 排気用部品の準備

※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合 (図 3-1)

排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。  
本体についているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。  
取付方向は右図を参照してください。

※ 近傍にある△刻印のトラスねじは取りはずさないでください。

■ 側方および後方排気の場合 (図 3-2) (別売品の L 形ダクトを使用する場合)

排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。  
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。  
排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ (M4 × 8) 4 本で L 形ダクトに取り付けてください。  
本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「5. ダクトと排気用部品の接続」参照）

**お願い**  
L 形ダクトを使用しない、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開閉方向に注意して排気口を取り付けてください。  
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。



4. 本体の取り付け

注意

■ レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に  
落下により、けがをすることがあります

■ 部品の取り付けは確実に  
落下によりけがをすることがあります

■ 吊り金具の取付位置調整 (図 4-1)

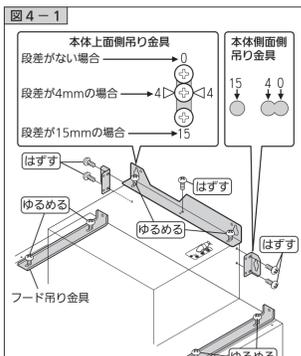
レンジフード取付面に段差がある場合、段差に合わせて本体上面側吊り金具、本体側面側吊り金具、フード吊り金具の取付位置調整をおこないます。段差に応じて、調整幅は 0 から 15mm の間でおこなえます。（本体上面側、本体側面側吊り金具には 0、4、15 (mm) の数値が刻印されています。）

1 各吊り金具を固定しているねじをゆるめる、またははずします。（右図参照）

2 段差に合わせて、金具をそれぞれスライドさせます。

3 ゆるめた、またははずした固定用ねじを確実に固定します。

※ 段差がない場合はそのままの位置で (0 の位置) 取り付けます。



4. 本体の取り付け準備をします。

(図 4-2)

本製品には本体を固定するための 2 種類の吊り金具が取り付けられています。取付条件に応じて次の作業をおこなってください。

■ 標準取り付けの場合  
取り付けには本体上面側吊り金具を使用してください。

■ 本体上面側吊り金具が取り付けで干渉する場合  
取付ねじ (3ヶ所) をはずし、本体上面側吊り金具をはずします。  
取り付けには本体側面側吊り金具を使用してください。

5. 本体だるま穴用座付ねじ 2 本をねじ込み

(図 4-3)

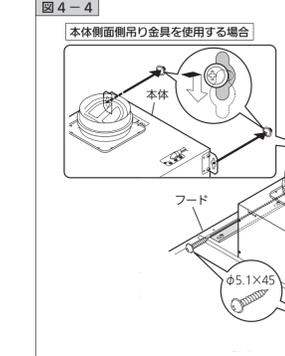
別紙の取付大型紙を参照し、だるま穴位置 (2ヶ所) に座付ねじ (φ 5.1 × 45) 2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けてください。  
取付穴形状は、本体上面側吊り金具と本体側面側吊り金具とで若干異なります（右図参照）。

6. 本体を引っ掛け固定します。

1) 座付ねじに本体のだるま穴を引っ掛けた後、座付ねじ 2 本をしっかりと締め付けてください。

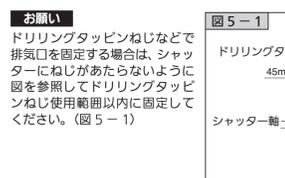
**お願い**  
上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

2) フード左右にある吊り金具の丸穴に、付属品の座付ねじ (φ 5.1 × 45) 2 本をねじ込み、しっかりと固定します。



5. ダクトと排気用部品の接続

**お願い**  
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 5-1）



5. 上方排気の場合

ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこないます。（図 5-2）

6. 側方排気および後方排気の場合

(別売品の L 形ダクトを使用する場合)

1 排気口を取り付けます。（図 5-3）  
本体排気口取付位置に取り付けている取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

※ 近傍にある△刻印のトラスねじは取りはずさないでください。

7. 風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこないます。

(図 5-3)

8. 排気口設置面の漏風確認のお願い

(図 5-4)

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面 (製品天面等) が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転 (強運転) をおこなってください。  
漏風する場合は、排気口と設置面の周りアルミテープ等 (現場調達品) で漏風防止処置をおこなってください。

6. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし

■ 保護用クッション材をいったん取りはずし、オイルパネルに貼り付けてある取扱説明書をはずします。

■ 付属の取扱説明書を参照してオイルパックやフィルターを固定しているテープをはがします。

取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。  
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご注意は表面をご覧ください。

## 取り付けかた（つづき）

### 7. 電気配線

#### 警告

-  ■ 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしない  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
-  ■ 交流 100 V 以外では使用しない  
火災・感電の原因になります
-  ■ 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って  
法的有資格者が工事をおこなう  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
-  ■ アースを確実に取り付ける  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

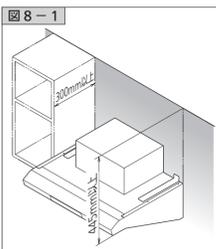


分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- お願い**
- ・電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
  - ・「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
  - ・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
  - ・必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
  - ・レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

### 8. 幕板の取り付け

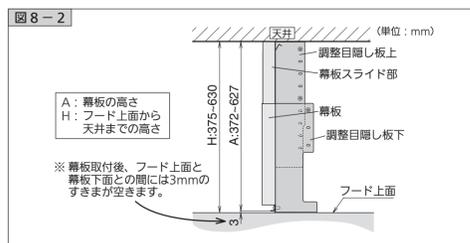
- 取り付け前の寸法確認（図 8-1）  
フード下面から天井までの高さが 445mm 以上、また壁からキャビネット本体までの奥行 300mm 以上あるかそれぞれ確認してください。



- ※ 奥行が 300mm 以下の場合は別売品の横幕板をご使用ください。

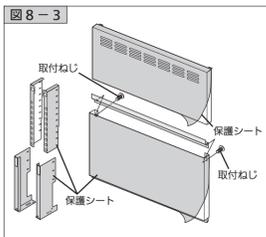
- 幕板取付高さ範囲（図 8-2）

次式により幕板の高さを算出し、幕板のスライド部を調節して高さをお合わせします。  
A（幕板の高さ）= H（フード上面から天井までの高さ）- 3mm



※ 幕板取付後、フード上面と幕板下面との間には 3mm のすきまが空きます。

- 1 保護シートを剥がします。（図 8-3）  
幕板および調整目隠し板上・下に保護シートがついている場合は、保護シートをはがします。

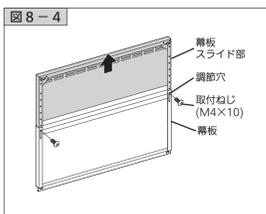


- お願い**  
保護シートを剥がした後はキズが付きやすいので十分注意してください。

- 2 スライド部を固定します。（図 8-4）

- 1) あらかじめ「幕板取付高さ範囲」（図 8-2）を参照して幕板の高さ調整をおこなってください（幕板をキズつけないよう十分ご注意ください）。

- 2) 幕板にあらかじめ取り付けている取付ねじ（M4×10）をはずし、高さ調整してはずしたねじでしっかり固定します。

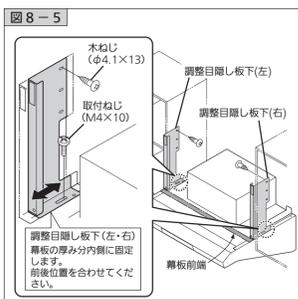


- 3 調整目隠し板下（左・右）を取り付けます。（図 8-5）

- お願い**  
調整目隠し板上・下を取り付ける際は左右を間違えないようご注意ください。

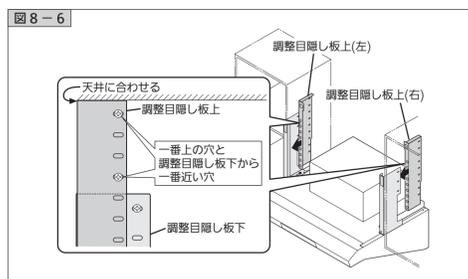
- 1) 調整目隠し板下を本体とキャビネットの間に挟み込み、付属品の取付ねじ（M4×10）で固定します。

- 2) 調整目隠し板下とキャビネットを付属品の木ねじ（φ4.1×13）で固定します。



- 4 調整目隠し板上（左・右）を取り付けます。（図 8-6）  
調整目隠し板上を調整目隠し板下に差し込み、天井に合うよう位置を調整して木ねじ 2 本で固定します。

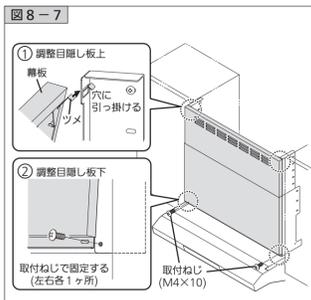
- ※ 木ねじ 2 本は、うち 1 本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう 1 本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。



- 5 幕板を取り付けます。（図 8-7）

- 1) 幕板裏面上部にある左右のツメを調整目隠し板上の穴に引っ掛けます。

- 2) 幕板と調整目隠し板下のねじ穴を合わせ、付属品の取付ねじ（M4×10）2 本で固定します。



### 9. 試運転

#### 注意

-  ■ 運転中は指や物を絶対に入れない  
けがをするおそれがあります



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

### 10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

【販売元】 フジテックメンテナンス株式会社

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号

お申し込み・お問い合わせ 0120-953-903（通話料無料）

FAX 042-768-3383

ホームページ <https://www.fujioh.shop>

受付時間 9:00 ~ 17:30（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）

【製造元】 **-FUJIOH-** 富士工業株式会社

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号

お客様ご相談窓口 0120-071-686（通話料無料）

受付時間 9:00 ~ 17:30（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）